

W41b MAXI/SSC のデータ公開について

北山博基, 常深博, 木村公 (大阪大学), 富田洋, 松岡勝, 上野史郎, 片山晴善 (JAXA), 大休寺新 (宮崎大学), ほか MAXI チーム

国際宇宙ステーションに搭載された X 線全天監視装置 MAXI は、2009 年 8 月に観測を開始した。SSC は 90 分で地球を一周する宇宙ステーションの動きを利用して 0.5~12keV のエネルギー帯域を全天モニターする。SSC は ISS が夜の時を中心に観測を進めており、一日あたりの検出感度は 50mCrab (5σ) 程度である。

観測開始から、一年近くたった現在では 50 を超えるソースが検出できている。Cygnus Loop や Vela SNR など 2keV 以下のエミッションが強い天体に加え、X 線連星などの時間変動もとらえている。また、2010 年夏からは、理化学研究所の MAXI ホームページより、既知の天体に関して SSC が取得したライトカーブ等のデータ公開を予定している。本講演ではデータ公開システムの概要と観測データのサンプルを紹介する。